様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　５ 月 ３０ 日現在

機関番号：１４４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2023
課題番号：１９Ｋ００７０８

研究課題名（和文）大学における日本語自律学習支援者養成プログラムの開発

研究課題名（英文）Creating an Effective Training Program for Facilitators of Autonomous Japanese Language Learning in Higher Education

研究代表者
義永　美央子（YOSHINAGA, Mioko）

大阪大学・国際教育交流センター・教授

研究者番号：８０３２４８３８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、学習者オートノミーや言語の自律学習支援に関する理論的検討に基づき、大学における日本語自律学習支援者（自律学習を支援するために必要な知識・技能・態度を持った人材）を養成するプログラムとして「第二言語学習方法論」と「言語学習アドバイジング入門」の２つの授業を開発・実施した。また、受講者の振り返りを分析し、授業の効果の検証を行った。そして、これらの知見に基づいて学会発表9回、論文11本、書籍出版5冊、講演7件を行い、成果を広く社会に発信した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
自律学習やその支援の重要性はかねてより指摘されているが、自律学習の支援者の体系的な養成を目指すプログラムはこれまでほとんど開発されていない。自律学習を促進・支援する力量をもった日本語教育人材が求められる中で、学習者オートノミー・教師オートノミー・自律学習支援などの理論的検討に基づき、自律学習支援に必要となる知識・技能・態度を養成するための具体的なプログラムを開発し、他の教育機関等でも応用可能な１つのモデルを示した本研究の意義は大きい。

研究成果の概要（英文）：Based on theoretical considerations of learner autonomy and support for autonomous language learning, we planned and implemented two programs: "Methodology for Second Language Learning" and "Introduction to Language Learning Advising." These programs were designed to develop autonomous Japanese language learning facilitators, defined as personnel with the knowledge, skills, and attitudes necessary to support autonomous learning at universities. Additionally, we analyzed the participants' reflections and assessed the effectiveness of the programs. As a result of our findings, we made nine conference presentations, published eleven papers and five books, and delivered seven lectures, thereby disseminating our achievements to the broader society.

研究分野：応用言語学、日本語教育学

キーワード：日本語教育　自律学習　第二言語学習　学習支援　学習者オートノミー　教師オートノミー　言語学習アドバイジング　プログラム開発

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

近年、学びのあり方を自分で決められる能力、すなわち学習者オートノミーに注目が集まっている。学習者オートノミーに基づく言語学習では、教室で教師に教えられながら学ぶだけではなく、教室外学習も含めたさまざまな環境で、自分にとって必要と考えられるリソースを選び取り、学習者が主体的に学習を進めることが重要になる。とはいえ、全ての学習者が最初から完全に自律的に学べるわけではない。学習目標や学習計画の設定、学習方法の選択、学習過程のモニタリングなどに関する支援が必要とされる場面も多く、そうした自律学習支援のあり方に関する研究も多く行われている。文化審議会国語分科会が発表した「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）」（2018、改定版 2019）でも、日本語教師【初任】（留学生）に求められる資質・能力として「学習者の自律学習を促進し、主体的に学ぶ力を育てるための教育実践ができる（教育実践のための技能）」「学習者の自律学習を促進し、主体的に学ぶ力を育てようとする（学習者に対する態度）」といった項目が含まれており、自律学習を促進・支援する力量をもった日本語教育人材の養成が求められている。

２．研究の目的

１）学習者オートノミーや自律学習支援に関する先行研究を広く検討し、自律学習促進に向けてどのような支援を提供する必要があるか、支援者に必要な知識・技能・態度を明らかにする。

２）１）の結果をふまえ、支援者養成プログラムを開発・実施する。

３）２）で開発・実施した支援者養成プログラムの効果を検証し、プログラムの改善を図る。

これらの取り組みを通じて、学習者の自律的・主体的な学びをどのように促進していくか、あるいは、学習者の自律的・主体的な学びを支援できる人材をどのように育成するかといった、現代の教育における重要な課題について解決方法の一端を提示することを目指す。

３．研究の方法

１）自律学習支援者に必要な知識・技能・態度の特定
学習者オートノミーや自律学習支援に関する文献を収集・検討し、自律学習促進に向けてどのような支援を提供する必要があるか、支援者に必要な知識・技能・態度を明らかにする。

２）自律学習支援者養成プログラムの企画・実施および検証
１）の知見をふまえ、自律学習支援者養成プログラムを開発・実施する。また、プログラム参加者の振り返りの分析を通じて、養成プログラムが参加者の自律学習支援者として求められる知識・技能・態度の向上に寄与しているかを検証する。

４．研究成果

１）自律学習支援者に必要な知識・技能・態度の特定

・日本語教師の資質・能力観の変遷を調査し、日本語教師教育の課題に関する検討を行った。また、近年の応用言語学における言語観・言語能力観の変化をふまえ、今後の言語教師には、学習者の言語使用状況の理解とそれに即した教育・学習支援活動のデザイン、学習者の個別性への注目とアドバイザー的役割、言語学習をとりまく社会制度やイデオロギー構造への注目が必要であると主張した。

・第二言語の使用・学習・教育とイデオロギーの関わりを論じた研究を概観し、モノリンガルバイアスや母語話者主義といったイデオロギーの存在を指摘した。また、より大きな社会制度に関わるイデオロギーである新自由主義と母語話者主義が結びつくことで、社会の中で優位に立つ人々とそうでない人々の階層化が進行していることを明らかにした。これらの結果から、言語教師が批判的認識を持ちつつ、主体的に教育実践に取り組むことの重要性を主張した。

・自律的な言語学習を支援するための方法の一つとして、アドバイザーが学習者との対話を通して傾聴や助言を行う言語学習アドバイジングに注目した。そして、実際のアドバイジング場面の豊富な用例に基づき、学習者の「振り返りを促進する対話」がどのようにして成立するかを示した Kato, S. and J. Mynard. (2016) *Reflective Dialogue: Advising in Language Learning.* NY:

Routledge.の日本語訳を行い、『リフレクティブ・ダイアローグ―学習者オートノミーを育む言語学習アドバイジング』（大阪大学出版会、2022 年）として刊行した。

２）自律学習支援者養成プログラムの企画・実施および検証

・自律学習支援者の養成を主たる目的とする科目として「第二言語学習方法論」「言語学習アドバイジング入門」の２科目を新たに開講した。

・「第二言語学習方法論」は、学習者オートノミーの育成を目標として、受講生が学習したい言語を１つ選び、その言語の学習を自律的に進めていく授業である。受講生は目標の設定、現時点での自分の能力の評価、学習計画の作成、モチベーションの維持といった、目標言語の学習を自己主導的に進めるための各種の課題に取組み、その結果を受講生間のグループワークやクラス全体のディスカッションによって共有した。これらの過程を通じ、受講生は自律的な言語学習を体感的に理解することになる。

この授業での学びを受講生の振り返りシートを通じて分析した結果、受講生は本授業での学習事項と以前から持っていた知識や信念を関連付け、言語学習に関する知識の獲得・深化や言語学習に関する信念の転換を実感していた。また、自らの言語学習上の特性の（再）認識ならびに多様な学習方法の発見を通じて、新しい学習習慣の獲得に至ることが明らかになった。「多様な学習方法の発見」は、授業担当講師の講義のみならず、仲間との関わりを通じて達成されていた。仲間との関わりはさらに、有能感の強化や動機づけの維持にも貢献していた。

科研最終年度には、この授業で実践した活動をまとめ『学習意識改革ノート―外国語を自律的に学ぶための３か月プログラム』（大阪大学出版会、2024 年）として刊行した。

・「言語学習アドバイジング入門」は、本研究の成果の一部として翻訳・出版された『リフレクティブ・ダイアローグ―学習者オートノミーを育む言語学習アドバイジング』（上述）をテキストに用いた。実際の授業では、アドバイジングの理念や理論的背景の検討、アドバイジングのストラテジーやツールの検討に続いて、アドバイジングの実習を行った。

本授業の受講生の振り返りシートの分析を通じて、受講生はアドバイジングの原則を踏まえつつ、授業で学習したツールやストラテジーを活用し、主体的な学習を促すための伴走者としての役割を果たそうとしていたことや、アドバイジングを学び実践する過程の中で、受講生間の対話や受講生自身の学習・教育経験の振り返りが行われ、アドバイジングに関する理解の深化や言語学習に関するビリーフの変容が生じたことが明らかになった。ただし、アドバイジングに関する知識の実践への適用や、教師やチューターとアドバイザーの異同の理解についてはいくつかの課題が確認された。

３）総括と今後の方向性

上述のように、本研究ではオートノミーや自律学習支援に関する理論的検討をふまえ、日本語自律学習支援者養成プログラムとして、２つの科目を企画・実施した。そして、これらの科目の受講生には、自律学習支援のための知識・技能・態度の各側面において変化や向上がみられたことを明らかにした。これらの成果について、学会での発表や学術論文に加え、書籍や一般向け講演の形で社会に広く伝えることによって、研究代表者・分担者の所属大学のみならず、他の教育機関等でも応用可能な１つのモデルを示すことができた。

今後の方向性として、以下の２点が指摘できる。

①学び合うコミュニティとしての SALC におけるオートノミーの育成

本研究の研究期間内に、研究者の所属大学に言語学習のためのセルフアクセスラーニングセンター（SALC）がオープンした。この SALC では日本語だけでなく、合計 25 言語の自律的な学習をサポートするための種々取り組みを行っているが、本研究の成果として開設した授業を受けた大学院生が SALC のサービスを利用したり、学生スタッフとして活動に参加したりする循環が生まれつつある。今後も学習者オートノミーや自律学習支援についての知識や技能を有する学生が SALC の活動に参加し発展させるという流れを促進し、学生同士の交流を通じて相互に学び合うコミュニティの構築につなげていくことが期待される。

②ウェルビーイングやエンゲージメント、教師オートノミーについてのさらなる検討

本研究は、当初は日本語教育に関わる研究と実践の質的向上を目指して行われたものであったが、研究の進展に伴い、日本語のみならず言語の学習・教育全般に通底する普遍性を

持つことが少しずつ明らかになってきた。特に、言語学習を学習者の人生の軌跡の中に位置づけ、「その人らしく」生きることに寄与することが重要であるという視点は、近年注目を集めている、言語学習におけるエンゲージメントやウェルビーイングとも強い関連性を有する。また、学習者オートノミーの育成のためには、それを支援する支援者や教師自身のオートノミーが非常に重要である。これらの観点からも、本研究のさらなる発展可能性が示唆される。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計11件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　11件）

１．著者名 瀬井 陽子、義永 美央子、難波 康治、角南 北斗、井奥 智大	４．巻 28
２．論文標題 SALC の学生スタッフと創る日本語学習支援 ： OU マルチリンガルプラザの活動から	５．発行年 2024年
３．雑誌名 多文化社会と留学生交流 ： 大阪大学国際教育交流センター研究論集	６．最初と最後の頁 47～53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/94689	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 義永 美央子、瀬井 陽子、難波 康治、角南 北斗、韓 喜善	４．巻 27
２．論文標題 大阪大学における言語学習支援の展開 ： ポストコロナを見据えて	５．発行年 2023年
３．雑誌名 多文化社会と留学生交流 ： 大阪大学国際教育交流センター研究論集	６．最初と最後の頁 85～93
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/90848	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 瀬井 陽子	４．巻 27
２．論文標題 日本語教育における「自律的な学習」促進の実践と支援 ： 1990年代以降の議論をたどる	５．発行年 2023年
３．雑誌名 多文化社会と留学生交流 ： 大阪大学国際教育交流センター研究論集	６．最初と最後の頁 1～10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/90839	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 難波 康治、相川 大知、義永 美央子、角南 北斗、韓 喜善、瀬井 陽子	４．巻 27
２．論文標題 大学における日本語学習支援ウェブサイト調査（1） ： 国内の大学を対象として	５．発行年 2023年
３．雑誌名 多文化社会と留学生交流 ： 大阪大学国際教育交流センター研究論集	６．最初と最後の頁 127～134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/90852	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 義永 美央子、難波 康治、瀬井 陽子、角南 北斗、韓 喜善	4．巻 26
2．論文標題 リアルとバーチャルを結んだ日本語学習支援の取り組み ： 3年間の総括	5．発行年 2022年
3．雑誌名 多文化社会と留学生交流 ： 大阪大学国際教育交流センター研究論集	6．最初と最後の頁 41～53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/86447	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 瀬井 陽子	4．巻 26
2．論文標題 SALCにおける自己主導型学習促進のセッションでどのような目標到達過程が語られたのか ： 日本の大学院で学ぶ留学生のケース・スタディ	5．発行年 2022年
3．雑誌名 多文化社会と留学生交流 ： 大阪大学国際教育交流センター研究論集	6．最初と最後の頁 1～12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/86443	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 義永美央子	4．巻 23/1
2．論文標題 日本語教師の資質・能力観の変遷と今日的課題	5．発行年 2020年
3．雑誌名 社会言語科学	6．最初と最後の頁 21-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.19024/jajls.23.1_21	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 義永美央子・瀬井陽子・難波康治・角南北斗・韓喜善	4．巻 25
2．論文標題 日本語学習支援の全学的な展開に向けて：OUマルチリンガルプラザとOU日本語ひろばの実践報告	5．発行年 2021年
3．雑誌名 大阪大学国際教育交流センター研究論集　多文化社会と留学生交流	6．最初と最後の頁 55-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/79103	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 林希和子・陳静怡・李雪・義永美央子	4．巻 25
2．論文標題 JSL学習者の日本語実践におけるICTツールの使用状況：モバイル端末の利活用に関する質問紙調査報告	5．発行年 2021年
3．雑誌名 大阪大学国際教育交流センター研究論集　多文化社会と留学生交流	6．最初と最後の頁 75-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/79105	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 瀬井陽子	4．巻 25
2．論文標題 教室外で日本語を学ぶ学習者向けの日本語学習アドバイジング：理論的枠組みと導入への取り組み	5．発行年 2021年
3．雑誌名 大阪大学国際教育交流センター研究論集　多文化社会と留学生交流	6．最初と最後の頁 31-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/79100	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 義永美央子・角南北斗・瀬井陽子・難波康治	4．巻 24
2．論文標題 日本語の自律学習を支援するオンラインプラットフォーム「OU日本語ひろば」の開発について	5．発行年 2020年
3．雑誌名 大阪大学国際教育交流センター研究論集　多文化社会と留学生交流	6．最初と最後の頁 27-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/79091	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計16件（うち招待講演　7件／うち国際学会　4件）

1．発表者名 義永美央子
2．発表標題 日本語教育における自律学習支援の理論と実践
3．学会等名 九州大学・言総研日本語教師セミナー（招待講演）
4．発表年 2024年

１．発表者名 義永美央子
２．発表標題 言語学習アドバイジング・基本の “ き ” ：学習者の背中を押すために
３．学会等名 第49回JLTN講演会（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Yoko SEI, Maya ABE
２．発表標題 SALC operations during a pandemic: A case of OUMP
３．学会等名 The Japan Association for Self-Access Learning 2022 National Conference（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 義永美央子
２．発表標題 言語学習アドバイジングの実践を通じた支援者の学び：教師の役割の再検討
３．学会等名 第26回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 義永美央子
２．発表標題 VUCAの時代における言語の学習・教育を考える：オートノミーと教師の役割
３．学会等名 JLEMENA2023 中東・北アフリカ日本語教育シンポジウム（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 義永美央子
２．発表標題 なぜ言語観の検討が必要なのか：日本語教育学の視点から
３．学会等名 静岡大学公開講座「コミュニケーションについて考える：言語活動によってつくられる私たちの世界」（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 義永美央子
２．発表標題 ポストコロナ社会における日本語教育者の生きる道
３．学会等名 筑波大学日本語・日本事情遠隔教育拠点主催 第３回 日本語教育とICT利用を考える <理念編>（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 義永美央子
２．発表標題 自律学習支援に効果的なアドバイジングとは：振り返りを促す対話の実践と学習者オートノミー
３．学会等名 凡人社オンライン日本語サロン研修会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 義永美央子
２．発表標題 学習者とのコミュニケーション：一人ひとりの「声」を聴くために
３．学会等名 公益財団法人八尾市国際交流センター　ボランティア研修会・日本語ボランティア発展編（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 ABE, Maya & SEI, Yoko
２．発表標題 Language Learning Portfolio Workshops at OU Multilingual Plaza
３．学会等名 The Japan Association for Self-Access Learning 2021
４．発表年 2021年

１．発表者名 瀬井陽子
２．発表標題 学習背景が異なる日本語学習者が集まる自己主導型学習のワークショップはどのように進行したのか
３．学会等名 言語文化教育研究学会 第8回年次大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 瀬井陽子
２．発表標題 SALC（OUマルチリンガルプラザ）における課外での自律的な日本語学習サポートの実践報告
３．学会等名 大阪大学第6回豊中地区研究交流会
４．発表年 2021年

１．発表者名 義永美央子
２．発表標題 ことばの学び方を学ぶ授業のデザイン：学習者オートノミーの育成を目指して
３．学会等名 言語文化教育研究学会第７回年次大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 SEI, Yoko & ABE, Maya
２．発表標題 Support for Multi-Language Learning: A Case of OU Multilingual Plaza at Osaka University
３．学会等名 The Japan Association for Self-Access Learning 2020 National Conference
４．発表年 2020年

１．発表者名 瀬井陽子
２．発表標題 ポストコロナ時代の学習者オートノミー育成：セルフアクセスセンターの再考
３．学会等名 2020年度日本語教育学会秋季大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 義永美央子・嶋津百代
２．発表標題 オンラインとリアルをつなぐ新しい日本語学習環境の構築
３．学会等名 ヨーロッパ日本語教師会（AJE）（国際学会）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計5件

１．著者名 加藤 聡子、義永 美央子	４．発行年 2024年
２．出版社 大阪大学出版会	５．総ページ数 160
３．書名 学習意識改革ノート	

１．著者名 西口 光一、神吉 宇一、嶋津 百代、森本 郁代、山野上 隆史、義永 美央子、大平 幸、佐川 祥予、高橋 朋子、西野 藍、林 貴哉、藤浦 五月、藤原 智栄美、松尾 慎、羅曉勤	４．発行年 2024年
２．出版社 大阪大学出版会	５．総ページ数 278
３．書名 一歩進んだ日本語教育概論（編集および第２章「母語話者主義を超えた言語学習とは」執筆）	

１．著者名 加藤 聡子、ジョー・マイナード（著）義永 美央子、加藤 聡子（監訳）安部 麻矢、瀬井 陽子、林 貴哉、久次 優子、村上 智里（訳）	４．発行年 2022年
２．出版社 大阪大学出版会	５．総ページ数 408
３．書名 リフレクティブ・ダイアローグ	

１．著者名 尾辻恵美、熊谷由理、佐藤慎司（編）	４．発行年 2021年
２．出版社 春風社	５．総ページ数 304
３．書名 ともに生きるために（第５章「第二言語の使用・学習・教育とイデオロギー」執筆）	

１．著者名 青木直子・バーデルスキー，M.（編著）第4章：義永美央子	４．発行年 2021年
２．出版社 ひつじ書房	５．総ページ数 340
３．書名 日本語教育の新しい地図―専門知識を書き換える―（第２章「溶けあうことばの境界」執筆）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

OU日本語ひろば
http://hiroba.ciee.osaka-u.ac.jp

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	瀬井　陽子 (SEI Yoko) (00868341)	大阪大学・国際教育交流センター・特任助教（常勤） (14401)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関